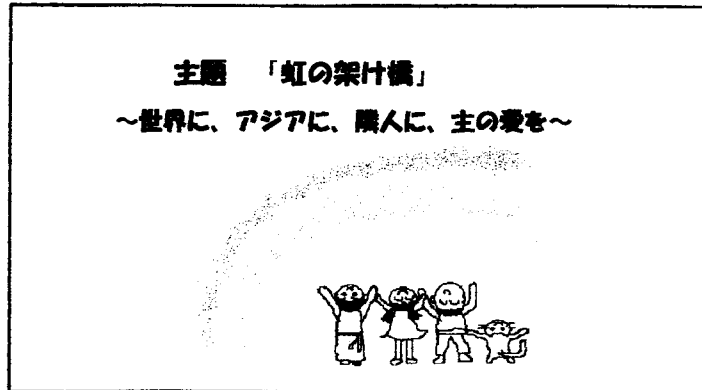


東教区女性会

# ほっとニュース

日本福音ルーテル教会  
女性会連盟東教区女性会  
発行者：安藤淑子



わたしは雲の中にわたしの虹を置く。  
これはわたしと大地の間に立てた契約のしるしとなる。

—創世記9章13節—

## 第21期主題聖句

目を覚ましていなさい。信仰に基づいてしっかり立ちなさい。雄々しく強く生きなさい。  
何事も愛をもって行いなさい。 コリントの信徒への手紙一 16章13節～14節

## 報告

第21期第4回会長会 2010年10月23日(土) 10:30-16:00

蒲田教会にて

今回は27教会から45名と午後の講演会のみのお出席の17名、合計で62名の出席者を得て会長会が開催されました。

### 第一部 礼拝

開会礼拝では渡邊純幸牧師に奨励をしていただきました。渡邊先生は、ルカによる福音書の収税人ザカイの物語から、イエス様は私たちがザカイのように上から見下ろしているのではなくパートナーとして横に並んで共に歩んでくださる、と話してくださいました。

また当日の席上献金は礼拝に出席された方々と池袋、長野、大岡山、市川の女性会からの献金も加えて¥57,845もの多額になりました。献金は全額、午後の講演会のお二人の講師が所属する「NPO 法人ウエスト神奈川女性の人権を守る会」に贈りました。

## 第二部 報告・提案・グループ懇談

今期は会長会に出席された方々が自己紹介後に、「祈りの葉」を交換して互いに折りあうことにしましたので今回も祈りの葉を交換しました。各女性会からの葉の追加注文も大歓迎です。

(色とりどりの葉があります。)

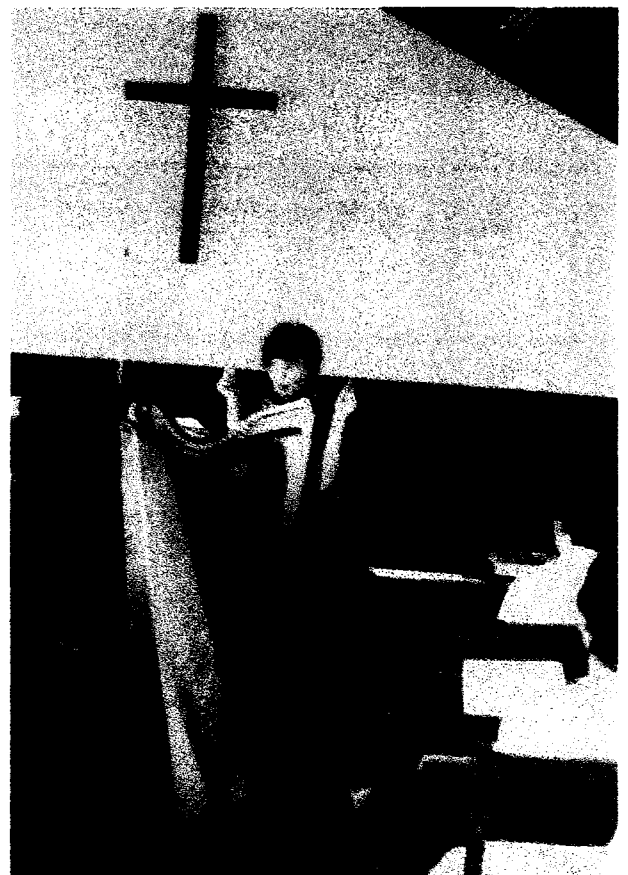
**報告** 2010 年会計中間報告、今夏 8 月にいつくしみから韓国を訪問した中島美津江役員の報告と 10 月に東京老人ホームを訪問しての報告が熊谷祥子役員からなされました。その後 2010 年の東教区女性会の主な活動報告と 21 期の残りの 18 ヶ月に予定している「22 期役員候補者が大勢出てくるような女性会にするための活動」について安藤淑子役員が説明をし、特に折り合うために[祈りの葉]を活用していただきたいこと、また他教会を訪問して欲しい、のアピールがありました。

# 会長会当日報告しそびれました！

## 甲信地区女性の集い開催

本年 7 月発行のシャロンの花だよりも短い報告はありましたが、甲信地区は年一回の女性の集いを 6 月 12 日に松本市の松本地区センターで開催しました。当日は、テーマの「交わり～絆」を中心に開会礼拝、大柴譲治牧師の講演「関わり合う～響きあう心」、ジェームズ・サック牧師の講演「関わり…絆」、リラ・プレカリア（祈りの堅琴）のキャロル・サック宣教師（ジェームズ・サック夫人）によるハープ演奏、最後に閉会礼拝がありました。

参加者は松本、飯田、諏訪、長野から女性会会員が 19 名、佐藤和宏、大宮陸孝、中村圭助の 3 牧師先生、とても嬉しいことに休会中の甲府から女性 7 名、諏訪、飯田、甲府から男性が 1 名ずつ、東教区女性会から役員の阿部富美子、前述の講師 3 名の合計 36 名でした。このたびの集いでは参加者が「祈りの葉」を交換し合いました。9 月発行の「甲信地区だより」に今回の女性の集いの報告が掲載されています。



キャロル・サック宣教師

**グループ懇談** 「役員になって良かった事、大変だった事」をテーマに7グループに分かれて話し合いをしました。沢山の意見が出されましたが、あるグループ(参加者6名)の報告を紹介いたします。

#### 良かった事

- ・ 出来ないから祈るしかないが、祈りが深くなる。
- ・ 教会の役がすごくきつかったが、教区の仕事をしたら楽に感じた。教会の人が協力的になった。
- ・ 実力が無くても誰でもできる。力を出し合って一つのもので作り上げることが出来る。
- ・ 他教会の人と話が出来るのがとても楽しい。
- ・ だまされ、引っ張られ、やってみたら神様の恵みが沢山あった。
- ・ メールが出来るようになった。パソコンが上達した。
- ・ 役員を30年前にやったが、その時の仲間といまだにいろいろ助け合っている。

#### 大変だった事

- ・ 終わってみると大変なことは忘れてしまった。
- ・ 子どもが放任になり、犠牲になった。はねかえりが後からきた。
- ・ 役員として自分のやり方に関心を持ってもらうのが難しかった。
- ・ 69歳の時に会長になったが、その時に母が重い病気になり大変だった。
- ・ 夫が身障者で大変だったが、神さまの助けにより、役員になり連盟のために働くことが出来た。
- ・ 今、夢中でやっているが、役員を終わったとき、恵みを感じると思う。

**諸報告** 口頭による報告は NCC(日本キリスト教協議会)の活動は毎年3月の第2金曜日  
に開催される世界祈祷日に限らないこと、また来年の世界祈祷日の式文翻訳はルー  
テル教会が担当しすでに校正段階に進んでいること、ACWC(アジア教会婦人会)  
からは11月5日(金)に飯田橋の日本キリスト教団富士見町教会で研修会が開  
催され、日本福音ルーテル教会からは60名が出席を予定していること、「ほし  
くずの会」からは代表の赤間峰子姉からその活動についての説明、いつくしみと  
女性会連盟は活動報告、書面による報告は、LWF/WICAS からは担当者が岩野翠姉  
から室園教会の俵恭子姉に変更になったこと、また東京老人ホームについては、  
ボランティアの活動内容とボランティアを募っていること、以上がなされました。

**LWF/WICAS 北東アジア会議報告** 今回役を引きうけてくださった俵さんからの報告です。  
岩野翠姉には今までのお働きに感謝いたします。

LWF/WICAS 協力委員 俵恭子(熊本・室園教会)

去る10月1日～2日、日本福音ルーテル京都教会にて3年に一度のLWF/WICAS 北東ア  
ジア地域会議が開催されました。台湾2名、香港2名、韓国1名、日本からは日本ルー  
テル教団の成田清恵さんと、日本福音ルーテル教会の俵恭子の2名、計7名が参加しました。  
会議直前に、LWF/WICAS 委員が女性会連盟の委嘱から日本福音ルーテル教会の委嘱に変わり、  
前任の岩野翠姉と連絡委員交代を余儀なくされる事態が生じ、十分な準備もできないまま  
会議に臨みましたが、岩野さんのそれまでのお働きといつくしみの皆さまがたや京都教会  
の牧師夫妻他皆さまからの強力なお支えがあり、無事に終了しました。

会議の主な内容は過去3年間の各国の活動報告、次期地域コーディネーターの選出（成田清恵さんに決定）、今後3年間の活動方針と予算についての話し合いでした。2日の公開講演会では近畿ルーテル桔梗が丘教会の山岡由紀子牧師が女性として神様の召しに応えながら、伝道者としての困難な道を切り開いてこられたことを証しされ一同大変勇気づけられました。LWF/WICASの活動テーマはジェンダー（男性と女性の社会的性差）から生まれる諸問題と女性のエンパワーメント（女性の力を発揮させること）です。北東アジア地域は特に教会においても社会においても男女平等をすすめ、女性のリーダーシップを強めていく必要があることを確認しました。そのために新しく出版されたテキストの翻訳活用が期待されます。

\*\*\*\*\*

LWF/WICAS（エルダビュルエフ/ウイカス）は

Lutheran World Federation/Women In Church And Society

世界ルーテル連盟/教会と社会における女性 の頭文字です。

\*\*\*\*\*

### 賛美の時間

♪ ♪ ♫ ♪ ♫ ♪ ♫ ♪

今回も中山康子姉指導の下に、輪唱で「神よ、たまえ 平和を（ドナ ノービス パチェム）」とスコットランドにあるアイオナ共同体の讃美歌集「みんなで輝く日は来る」（日本キリスト教団出版局発行）のタイトルの歌集から「聞いてください」を、蒲田教会の幼稚園ホール一杯に響かせました。両曲とても素敵な曲です。皆様の教会でもどうぞお歌いください。

♪ ♪ ♫ ♪ ♫ ♪ ♫ ♪



蒲田教会の礼拝堂

### 第三部 公開講座「DV被害を受けた女性と子供たち」

講師 藤井礼子氏（田園調布教会）

講師 柳堀恭子氏（小田原教会）

会長会当日の10月23日午後は、上記のお二人の講師をお迎えし、とても内容の濃いお話を伺うことが出来ました。以下はお二人が働いていらっしゃる「ウエスト神奈川女性の人権を守る会」についての藤井礼子氏の報告です。

## DV ドメスティック バイオレンス(家庭内暴力)

～地の上に平和を～

藤井礼子

初めに東教区女性会の皆様からお祈りと献金をいただきましたことを感謝いたします。

1995年に国連主催の北京女性会議で、女性への暴力撤廃宣言がなされたことを受けて日本でも2001年にDV防止法が成立、施行されました。

私たち「ウエスト神奈川女性の人権を守る会」(以下ウエスト)は県の委託を受け、超教派キリスト者と地域の有志によって2003年にシェルターを立ち上げたのです。

DV(家庭内暴力)と言われてもあまり私達に関係のない話と思われがちですが、最近新聞やTVで見る犯罪の中にDVがらみの事件が多いことに驚きます。身体的な暴力だけでなく言葉によるもの、経済的なもの、社会的、心理的、性的などいろいろな形があり、2008年の内閣府の調査では20歳以上の女性の三人に一人は何らかの形でDV被害を受けているとの結果が出されています。最近では女性から男性へ、親から子へ、子から親への暴力も少なくありません。

「ウエスト」では暴力防止のための講演会ははじめ、シェルターの運営、資金集めのチャリティーコンサート、バザーなどを続けてきました。

シェルターを利用する女性たちは、暴力に耐えきれず、命がけで子供を連れて「警察や福祉事務所に逃れ」、入所されます。2週間は無料で利用でき、その間スタッフは利用者さんに安全と安心を提供し、傾聴し、福祉相談員と共に今後の身の振り方について考えていきます。退所後はアパートや母子支援施設の他、住み込み就労を希望する女性もいます。

もし皆様の周りにDVで苦しんでいる女性がいましたら、「あなたは悪くない」と伝え、福祉事務所へ相談に行くことをお勧めください。また幼い時からあらゆる暴力に対して「NO」を言う教育が家庭や社会でなされない限り暴力をなくすことはできないでしょう。

イエスさまが身をもって教えてくださった平和を生み出すために、まず私たちが家庭で愛と思いやりを育てていきたいものと願っています。



<sup>ディヴィ</sup>  
DVは Domestic Violence  
の頭文字です。

## 公開講座「DV被害を受けた女性と子供たち」を聴いて

青柳幸江(湯河原教会)

初めにパープルリボンの説明がありました。紫色のリボンを身につけることでDVについて知ってもらい理解してもらおうということだそうです。ヴァイオレンスとバイオレットが似ているから紫色なんだろうか、なんて思いつつ軽い気持ちで聴き始めました。

統計上20歳以上の女性の内、3人に1人が暴力を受けているということ、DVは病気ではないということ、DVの存在は、家庭内の事で外からは解り難く、暴力は学習される

もの、DVを見て育った子が暴力を学習してしまう、親から子へと連鎖してゆくというのです。暴力は支配欲であり、家長の権力や長男尊重の強い風習の中で培われてきました。そのような中で、育った相手からコントロールされ続け、DVを受けてきた人を保護し、新しい生活への手助けをするシェルターについての具体的な働きをお聞きしました。ほんの少し例をあげてのお話を聞いただけでその場をにげ出したいくなる程、重たい気持ちになりました。被害者を癒し生き残ってゆく力をつけてゆくのに、2次被害をあたえないように接することの大変さ、大事さを思うと、シェルターでご奉仕されている方々の愛の深さ、信仰の確かさを感じました。午前中の会長会のテーマ「役員になって良かった事、大変だった事」で、引き受けなければよかった、の思いは変わらずとも、女性会や教会の奉仕がなんと明るく楽しいものであるかと、思いつつ帰りました。

## 本の紹介

### 「よく分かるDV被害者への理解と支援」石井朝子編著(明石書店) 定価2,400円

本講演では「対応の基本から法制度まで現場で役立つガイドライン」の副題がつけられている本書を参考書として読むように薦められました。12名の専門家による共著ですが女性会で一冊購入し、回覧したり、参考書として保存したりしてはとのことでした。

### 物品販売コーナー

会場教会の「蒲田教会」の女性の会は手作り無添加・無農薬のブルーベリージャム、かわいらしいシールなどがついたこれも手作りクリスマスカードまたアジアの女性が手作りしたポッシュェットなど、「稔台教会」からは手作りのビーズストラップとあわせ味噌、「飯田教会」からは切り絵のはがき、「湯河原教会」からはクリアファイルなどが出品されました。これらの教会の女性会は、その活動のためにまた各施設に献金するための原資とするために、出品されています。今後も東教区女性会の会合に出品を歓迎いたします。



色とりどりの手作りクリスマスカード

### 東教区女性会年活動予定

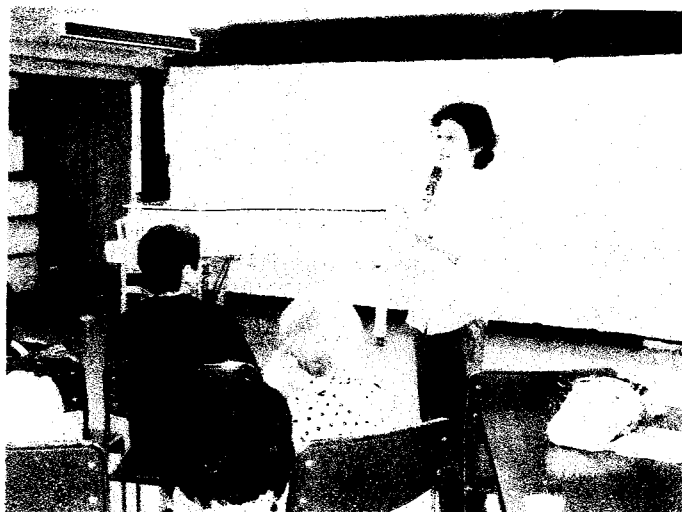
2011年 今から来年のカレンダーにご記入ください

- 3月 4日(金) 世界祈祷日 日本キリスト教団富士見町教会 (JR 飯田橋駅徒歩1分)
- 3月21日(土) 東京教会で東教区総会開催 東教区女性会はコーヒーショップを担当  
(後日ボランティアのお願いとお菓子の募集をいたします。)
- 4月16日(土) 会長会 市川教会にて
- 10月29日(土) 会長会 会場は未定

## 東京老人ホーム訪問

10月2日(土) 爽やかな秋晴れの下、今年の東教区女性会の活動の一つである東京老人ホーム訪問が行われました。保谷教会の開会礼拝では45名参加され、東京老人ホームでは入居者27名を含め、総勢72名の方々と楽しい一時を過ごしました。

以下に参加者の感想を紹介致します。



ボランティア活動について説明なさる大森はつ子姉

### 東京老人ホーム訪問

三五康子 (保谷教会)

暑さが残る秋口のはじめの10月2日。東教区女性会主催の東京老人ホーム訪問に参加いたしました。

昨年の予定日は、あいにくインフルエンザのために、寸前になって中止となり、役員の方々、また私も含めて参加を予定していた人はがっかりいたしました。

今年の会では、その予定に手を加えて実施されたということでしたが、少し無理があったように感じました。

私の感覚では、例年のホーム訪問とは違い、あまりにもプログラムが多かったのではないかと思います。折角の一年に一度の訪問日ですから、もっと多くの時間を利用者と共有することを考えるなり、カットされた最後のプログラムの作業等、ご奉仕できれば嬉しかったな一と感じました。

第二部の、森田さやか姉の時間は楽しい一時でした。「弾き語り演奏」は、利用者の方々にじっくりしたでしょうし「皆で歌いましょう」の時間も、誰でも知っている童謡を皆で歌い楽しい一時でした。

次のボランティア世話人代表の大森はつ子姉の活動内容の説明では、寸劇を用いて、ボランティアはどういうことをしているか、ということが良くわかりました。

保谷教会から東京老人ホームへの移動、二度のコーヒータイムと時間が無駄に過ぎもったいなと思うことがありましたけれど、主のお守りのうちに、今年もホーム訪問に参加でき感謝いたしました。

